

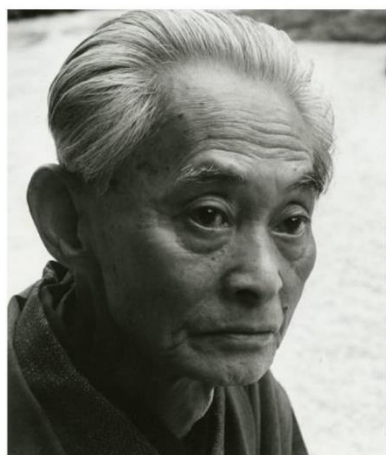
第 53 回 Kozoom28 「肖像作品を楽しむ」

清水健二

今年は「芸術の秋」と称してあちこちの美術館や文化会館で美術展が開催することになった。あしかけ4年に及んだコロナ禍から1年を経て、やっと文化・芸術活動が戻ってきた。鑑賞する人は爽やかな秋を楽しめるが、出品する人にとって夏は作品づくりに精を出し、暑い日々を乗り切らねばならない。私も所属する美術クラブの夫々から、すでに9、10月に絵画展、彫刻展、写真展へ出品してきた。12月には奈良県立美術館で開催される県展へ出品する彫刻作品の仕上げに目下追い込みをかけている。

私が趣味で彫刻を初めてから40年近くなるが、肖像作品を手掛けるようになって25年ほどになる。その間制作し発表した肖像は30点以上になるだろう。手元に残っているのは数点で、後は全てモデルになって頂いた人に進呈し、記録写真だけは残している。私が肖像彫刻に魅力を感じたのは、著名な写真家の撮る写真に見入って、モデルになった方の風貌から、その人柄や年輪を記念写真でなく、自然体の表情を巧みに写真家が引き出す感性の鋭さに感銘を受けたことが動機になっている。

心に残っている写真には、林忠彦氏の「川端康成」や木村伊兵衛氏の「秋田おばこ」、また土門拳氏の「筑豊の子どもたち」等、枚挙にいとまがない。



「川端康成」林忠彦撮影



「秋田おばこ」木村伊兵衛撮影



「筑豊の子どもたち」土門拳撮影

功なり名を遂げた人物でなくても、仕事一筋に一生をかけた人の貌（かお）はどこか魅力的である。子どもでも喜怒哀楽の表情に心打たれるものがある。人の顔はその人の心の中を表わし、対峙する人の心が深いほど一層、相手の心に寄り添いよみ解けるものだと思う。子どもの頃、心のないことを言って親から「嘘を言ってもお前の顔に描いてある」と

よく言われたことがある。それほどに貌はこころの鏡であり肖像は魅力的だと思っている。

海外旅行で出会うヨーロッパ人の彫りの深い顔は、彫刻対象として最適である。それだけに立体造形として挑戦したい思いが高揚し、中東に行った時にターバンを巻いたアラブ系の老人に声をかけ、写真を撮らせてもらって帰国後制作した。制作過程で粘土で仕上げた後に、石膏で雌型を取るが、その様子を撮った写真が出てきたの



石膏雌型制作中



2024年創造展に出品

でご覧願いたい。また、トルコに旅行した折にホテルで出会った柔和な顔立ちの男性と親しくなった。その時に撮らせて頂いた写真を基に制作し、今年の豊中市の芸術・文化会館で開催した創造展に出品した。

私の在住する八尾市は文化活動が活発で、その基礎を築いた元市長山脇悦司氏（在任 1975～1995）と親しくさせていただいたことから肖像を作らせてもらった。また前市長田中誠太氏（在任 2007～2019）も文化・芸術に熱心だったこともあり、よく言葉を交わし、申し出て肖像を作り進呈し喜んでもらっ



元八尾市長山脇悦司氏



前八尾市長田中誠太氏

た。それを八尾美術展に市長の PR も兼ねて出品し、当時の反市長派から苦情が出たことは今では思い出になっている。

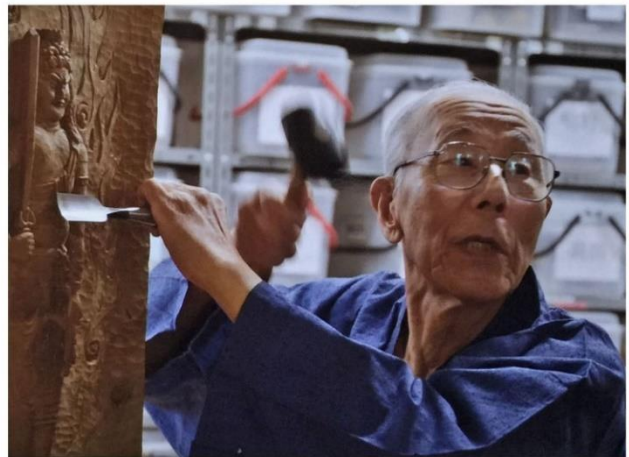
写真家が肖像写真を撮る前に、モデルになる人と会話して色々話題を投げかけながら、変化する表情を観察するように、彫刻の対象として捉える場合も同じように接して制作にかからないと、写真だけでは良い作品にならないものである。また概して人は年齢と共に気性も丸くなってきて、穏やかな風貌になるので作品にも味がでてくる。従ってどうしても私は年配者を対象になりがちである。

肖像彫刻のモデルにしたい顔立ちだと思えば、初めて会った人にも厚かましく声をかけ、美術展への出品を条件に制作し作品は進呈することになっている。そのことで制作技術も向上し楽しみも味わえる。何より多くの知人を持てたことは私の宝になったと思っている。

一方写真クラブで仲間たちとよくあちこち出かけては、四季の日本の原風景や伝統の祭り等を撮影したり、地方の農・漁村で働く人たちのスナップ写真を撮り、穏やかに老いを重ねた人たちの貌に出会って、写真と共に彫刻への制作意欲を感じてきた。写真クラブで指導頂いていた T 先生から、ある時私が彫刻するところをモデルに撮影したいと申し出があり、学習塾の生徒達を大勢連れて勉強会が開催された。その時の写真を参加した人達から頂いたのでご披露したい。撮られる立場になって、また違った経験も勉強になったものである。



モデルと私（撮影会にて）



不動明王 彫刻（撮影会にて）

近年は粘土を基にした塑像彫刻を主体に制作しているが、時に良質の桧材や楠材を入手すると、仏像を彫りたくなって、ノミを握り一刀三拝の気持ちで彫り進める。ノミを入れるたびに木の香りを嗅ぎ、楠材はショウノウの清々しい香りに包まれて、爽快な気分になってやれるのが良い。最近小ぶりの阿弥陀如来像を彫ったが、その途中で、記念に自撮りした写真をお見せし、私の日々の暮らしの一端をご披露し、ご笑覧いただくことにする。



阿弥陀如来像を彫る

令和6年11月 記